思って、洋裁の専門学校へ通い始めたんです。

その学校は将来、縫製の道へ進んだり、洋服などをデザインする道へと進んでいく若い子たちが多く通っているところで、その中に入って勉強させてもらいました。朝９時30分～午後３時30分まで授業が組まれていて、その学校に３年間、通わせていただき、資格も取りました。

そこで、いろいろな生地を見る機会があって、ある時、「庵治石柄の生地ってできるんですか？」と聞いたら、「作れるよ」と教えてもらい、それで、卒業後に庵治石柄の生地を作ることにしたんです。

この生地を使って最初に作ったのが、お墓参りへ行く時に、お線香やローソクを入れて持っていけるお墓参りバッグ。そこから風呂敷やマスク、ペンケースなども自分で作るようになり、ネクタイとトートバッグは裁縫工場にお願いして作ってもらうようにしました。

昨年からECサイトで販売も始めたところ、徐々にですが、購入いただけるケースも出てくるようになりました。その中で、もっとも購入いただいているのは地元の石屋さんです！

牟礼　うちの旦那も庵治石柄のネクタイとトートバッグを持って出張へ行ってます（笑）。

田渕　ありがとうございます（笑）。そうやって地元の石屋さんに宣伝していただけているおかげで、それを見た方に購入してもらえることもあったりして、とても感謝しています。

――では続いて、和泉さん、お願いします。

和泉　eMoyoシリーズの商品は２０１９年のあじストーンフェアで販売したのが始まりです。私も皆さんと同じで、子育てがひと段落したときに、何か始めたいなと思って。

その中で、山田さんもお話していたように、お墓に使わない石がたくさんあるのですが、よく見ると綺麗な石もたくさんあって。こういった石をお墓以外で何か使える方法はないかなと考えて、作り出したのがきっかけです。

はじめに、磨いた球体の庵治石に自分で模様を描いて、そこに小さな機械を使って彫刻してみたら、良い感じのものができて。２０１９年のストーンフェアをきっかけに、いくつかご購入いただけるケースも出てきました。

次に、庵治石の端材（本磨き・カサネ肌）を２～３センチ角のモザイクタイル調にデザインしたパネルを作りました。その時、完成した写真をフェイスブックに載せたら、すぐに「買いたい」と言ってくださる方がいらっしゃって。急な展開で「今から値段を決めます！」みたいな感じだったんですが（笑）、とても嬉しかったです。そういった新しい人との出会いも嬉しいです。

石屋の奥さまあるある？

――皆さん、ものを作ることが好きなんですね。庵治石や石に関わるものを作るという共通項はありますが、それぞれに違う目線でものづくりされていることも興味深いところですね。

ちなみに、皆さんの中で墓石の加工をされたことがある方はいらっしゃいますか？

牟礼　私、結婚して間もない頃にグラインダーで石の加工をしたことがあるんですが、とてもじゃないけど無理無理無理となって（笑）。磨きもすぐに「ダメ」と、戦力外通告を出されてしまい、そこから事務と墓石の文字編集の担当になりました。

和泉　私も小さな石を切ったりはするけど、基本的に石を加工する道具って、男の人用になっていると思うから、めっちゃ重いんですよ。私も、そこにある沓脱石の形が気に入らなかったから、（手で表現しながら）こういう機械で加工して。

牟礼　ビシャンですね。

和泉　それ（笑）、さすが加工屋さん！私、ビシャンの機械を使って加工してみようと思ってやってみたんですけど、めっちゃ重くて、服は真っ白になるわで、大変だった（笑）。

一同　（笑）。

――山田さんは、旦那さんの仕事を手伝うようなことはあるんですか？

山田　お嫁に来るときは、「経理だけ」という話だったんですけど、来てみたら、「石を運ぶの手伝って」とか、今度は「クレーンを使って」とか言われるようになってきて。

主人は、普段は優しいんですけど、仕事に対してはものすごくストイックなので、仕事中は怪我をしないように、人が変わったように怖いんですよ。「ここ出来てないよ」とか「もっと磨かなきゃ」とか言われて、「最初と話が違うので、もう外注に出してください」と言ったこともあります（笑）。

――「石屋の奥さまあるある」かもしれないですね（笑）。

旦那さんのこと

――と、この流れの中で、それぞれの旦那さんのすごいと思うところと、ここは直してほしいなと思うところを、山田さんから順番に教えてください。

山田　主人は仏像とか彫刻を作ったりするんですけど、六方切削した石に墨取りをして、それを形にすることができる技術とかデザイン力とかは、すごいと思います。四角い石がどうやって形になっていくのか、私はまったく出来ないことなので、本当にすごいことだと思ってます。

直してほしいなと思うところは、仕事が乗ってくると、食事も後回しになって、連絡もなく、夜遅くまで帰ってこないんです。私からしたら、家も近いから、一回帰ってきて、夜ごはん食べてから、仕事したらいいのにと思うけど、たぶん、乗ってきたら、一気にやってしまいたいんでしょうね。少し身体が心配だなというのはあります。

――なるほどなるほど。続いて、牟礼さん、お願いします。

牟礼　すごいなと思うところは、石を見て、これは「○○石」とか当てられることですね。私、神社やお寺を回るのが好きなんですけど、例えば、寺標の写真を撮影して「この石はなに？」とメールすると、「○○石」って返ってくる（笑）。それはすごいと思いますね。

直してほしいなと思うことは、石が好きなのはよくわかりますが、突然「あの石、買ったから」と言われて、すごい量の石を買ったりすること。もちろん仕事ですから、わかるんですけど、突然のように「○○へ行ったら、こんな珍しい石があったから買ったよ」と嬉しそうな声で言われて、「えっ、それ、どこに置くんですか？」みたいな。思い付きで行動してしまうところは、ちょっと直してほしいことかなと思います。

――石好きな石屋さんあるある、かもしれないですね（笑）。続いて、田渕さん、お願いします。

田渕　こちらへお嫁に来た時に、お墓参りへ行くとたくさんのお墓さんに花が供えられていて、信心深い方が多くいる地域なんだなと感じたことをよく覚えています。旦那さんの家族も、代々続いている石屋さんということもあって、そういうことはすごく大切にされています。

そういった背景もあるのか、また、お墓を扱う上でお寺さんなどとの関わりがあったりすることも関係しているのか、旦那さんは人当たりが穏やかなところは感じますね。

直してほしいところは、ないです。旦那さんはすごく私を自由にさせてくれていて、そのおかげで趣味を楽しめていて、充実できています。おそらく、お互いに直してほしいところはあるとは思うんですけど、それを言い出すと自由がなくなりそうなので、直してほしいところはないです。

――えっと…、上げてるのか、下げてるのか…。

田渕　上げてるんですよ（笑）。おそらく旦那さんも、私の直してほしいところはあるとは思うんですけど、そこは何も言わずにいてくれて、それも、すごいところだと感じています。

――自由の対義語は束縛といいますからね。さすがです！続いて和泉さん、お願いします。

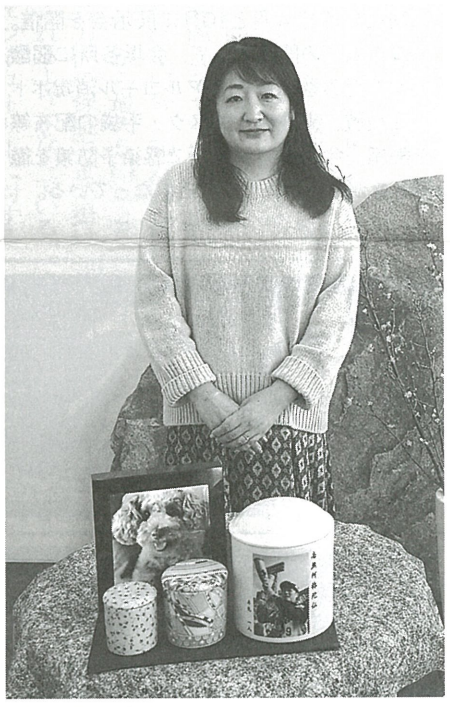
和泉　主人は長男のA型で、典型的なザ・良い人みたいな感じで。もともとサラリーマンだったところを、ウチの家族・会社へ入ってきてくれて。ウチの親も難しいタイプで、いろいろと苦労もあったと思う。間に入って納めてくれたようなことも多くあったりして、主人じゃないとできなかっただろうなと思ってます。

直してほしいところは、とくにはないけど、あんまり仕事とかで欲が少ないかなと思うことと、A型だから細かいところはあるね。よく「電気ついとるよ」と言われたり（笑）。

一同　（笑）。

和泉　私がO型の大雑把な性格なので、「あとで消そうと思ったのに」ということがよくあって（笑）。まあ、いろいろな面で感謝してます。

山田陽子さん
山田忠石材店・山田浩之社長の奥さま。庵治石を活かして製作するトールペイント、押し花をあしらったペーパーウエイトなどの作品を手掛けている。



牟礼晶子さん
㈲ムレギ・ストーン・牟礼一人社長の奥さま。絵柄や写真などを転写した手作りの骨壺「つぼ美」、ペット墓などに使われるメモリアルプレートなどを手掛けている。

「庵治石」を知ってもらえるきっかけに

――最後に皆さんの今後の目標を教えてください。

山田　これからも作品を作っていって、庵治のストーンフェアが再開されるようになったら、ぜひ皆さんに見ていただけるようにしたいと思っています。

また、息子が帰ってきたら、ネットでも情報発信していきながら、日本国内をはじめ、海外の方たちへも、ご縁が広がっていったら嬉しいと思います。

牟礼　骨壺のことを紹介しているホームページはあるのですが、なかなか更新が出来ていない状態になっていますので、その部分を少しずつ充実させていきたいなと。

お客さんに喜んでいただけることが、何より嬉しいことですので、これからもお客さんに喜ばれるものを作っていけるように、努力していきたいと思っています。

田渕　これからも庵治石柄の生地を活かした作品を作っていきたいと思っていますが、やっぱり一人で考えていると偏ってしまうので、いろいろな分野の人の意見をうかがいながら、アイデアを見つけていきたいと思っています。

また、出来れば、この庵治石柄の生地をアパレル業者さんに見つけてもらって、洋服の生地などに使ってもらえたら嬉しいですね。庵治石柄の洋服を着たモデルさんがランウェイを歩いている姿を見ることが夢でもあります。

――和泉さん、大トリのコメント、よろしくお願いします。

和泉　なんか緊張するね（笑）。えっと、自分としては、力まずマイペースに、これからも楽しみながら、ものづくりができたら良いなと思ってます。

それから（机の上に並べられた作品を見ながら）、こういった作品は、男の人は、あんまり作らないように思うんです。

もちろん庵治石というネームバリューがあるからこその作品だとは思うんですが、まったく庵治石のことを知らない方が、こういった作品を見て、「かわいいな」「部屋に飾りたいな」と思ってくれて、よくよく話を聞いていったら、これが「庵治石だったんだ」と気づいてもらえることが出てくるかもしれません。

こういった女性ならではのものづくりを通して、庵治石を知ってもらえるきっかけが広がっていったら嬉しいなと思います。

――皆さま、素晴らしいコメントでした。今後の活躍・展開も楽しみにしております！本日は誠にありがとうございました。

和泉　取材なんて、なかなかないから緊張するね～。（コーヒーを一口飲み、写真担当の記者を見つめながら、笑顔で）綺麗に撮ってくれました？変顔だけはやめてよ（笑）。

一同　爆笑